

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	超音速空対艦誘導弾用推進装置に関する研究	担当部局	経理装備局技術計画官
政策体系	4-1 研究・開発	実施時期	平成21年1月～3月

事業の内容 ミサイル対処能力の向上した艦対空ミサイル等を搭載する傾向にある将来の侵攻戦闘艦艇に対して有効に対処できる超音速空対艦誘導弾等に適用可能なインテグラル・ロケット・ラムジェット（IRR）エンジンに関する技術資料を得る。									
	14	15	16	17	18	19	20	21	完了年度 20年度
			研究試作						経費総額 約50億円
		←		→		←-----試験-----→			

評価の内容

事業の目的

将来の侵攻戦闘艦艇は、ミサイル対処能力の向上した艦対空ミサイル等を搭載する傾向にあり、現有の空対艦誘導弾の残存性等が今後相対的に低下することが予想される。これら将来の侵攻戦闘艦艇に対する残存性を向上させる有力な手法として超音速飛しようがあり、空対艦誘導弾等を超音速飛しようさせることが可能なインテグラル・ロケット・ラムジェット（IRR）エンジンの小型化等に関する研究を実施し、この技術分野における技術的優位性を確保することを目的とした。

②達成時期

平成15年度より試作に着手し、平成20年度までに所内試験を完了し、研究を完了した。なお、当初計画では平成18年度終了を予定していたところ、ブースタ関連の問題点の解決等のため、事業の完了時期が平成20年度に変更された。

今後の対応

本研究により得られたIRRエンジン技術に関する技術資料は、平成22年度からの開発が予定されている新空対艦誘導弾（XASM-3）に反映される。

達成状況

①達成効果

下記の技術課題の解明により、将来の超音速空対艦誘導弾等へ適用に必要なIRRエンジン技術に関する技術資料を得た。

- ア 推進装置の小型軽量化
- イ IRR推進方式による実飛しようの実現

③教訓等事項

本事業により、IRRエンジンを搭載した飛しよう体による実飛しようが実証されたことにより、試作において発生した問題点を含め技術課題が解明された。これにより、超音速空対艦誘導弾等への適用可能なIRRエンジン技術実用化の見通しが得られた。

その他の参考情報

--